

第96回 | 11月9日(金) 18:00~20:00

## 古代中国の スタンプ紋様の鑄造方法

- 講 師：三船 温尚  
(富山大学芸術文化学部教授)
- 場 所：学習院大学北1号館308

青銅器の鑄造技術で、人類が最も高度な水準に到達したのは3千年前ころの商周時代です。そのなかで戦国時代に流行する「繰り返し紋様」の技術を3Dスキャンデータによって解明した最新研究をご紹介します。想像を遥かに超えた古代の技は新鮮な驚きと感動を与えてくれます。

第97回 | 11月30日(金) 18:00~20:00

## 多様な青銅器文化 — 形成期の「中国」的世界とその周辺 —

- 講 師：西江 清高  
(南山大学人文学部人類文化学科教授)
- 場 所：学習院大学北1号館308

紀元前2千~1千年紀、ユーラシア東部の諸地域では多様な青銅器文化が展開しました。初期王朝時代の「中国」、北方草原地帯、東南アジア大陸部などです。講演では形成過程にあった「中国」的世界を中心にユーラシア東部を巻き込んだ青銅器文化の交流について紹介します。

第98回 | 12月12日(水) 18:00~20:00

## 青銅器と石器 — 文化財の化学分析からわかること —

- 講 師：飯塚 義之  
(中央研究院地球科学研究所研究技師・  
金沢大学国際文化資源学センター客員研究員)
- 場 所：学習院大学北1号館308

近年、発掘された遺物や文化財の化学分析が広く行われています。その一方で分析結果の解釈は分析対象や分析手法に応じてとても難解です。本講演では東アジア、東南アジアから出土した青銅器と石器(玉器)遺物の化学分析法を簡単に紹介し、得られた分析結果の解釈の実例を解説します。

**入場無料・事前申し込み不要**

監 修：高柳 信夫 (東洋文化研究所長)  
司 会：植田喜兵成智 (東洋文化研究所助教)  
鈴 木 舞 (東洋文化研究所助教)

学習院大学東洋文化研究所

# 青銅器からみる 古代東アジア



今年度の東洋文化講座は、学習院大学でも所蔵する文化財、とくに青銅器がテーマです。古代中国の青銅器は権力の象徴でした。それらは一体どのように作られ、どのように行き渡ったのでしょうか。また、そのことはどのような歴史的意味をもつのでしょうか。このような青銅器に焦点を当て、鑄造技術・考古学・文化財科学の3つの異なる視点から、古代東アジア世界について、連続講演会を開催します。

## 【講師プロフィール】

### 三船 温尚

1985年高岡短期大学産業工芸学科講師、2005年より現職。東京芸術大学美術学部工芸科で真土型（まねがた：陶製鑄型）を用いた伝統的鑄金技法（込型・蠟型・惣型技法）による工芸・彫刻の制作を学び、以後、鑄造による青銅作品の発表をおこなってきた。1992年から作品制作と並行して古代青銅器の鑄造技法研究を開始し、2012年以降は技法研究の論文発表のみに絞って取り組んでいる。



### 西江 清高

1954年生まれ。上智大学大学院博士後期課程修了。1984～87年、北京大学考古系に留学。専門は中国初期王朝時代の考古学。『中国の考古学』同成社（共著）、『世界歴史体系 中国史1』山川出版社（共著）、『扶桑与若木 日本学者对三星堆文明的新認識』巴蜀書社（主編・共著）など。



### 飯塚 義之

1996年、岡山大学大学院自然科学研究科博士課程終了。博士（理学）。専門は岩石学、地球化学。米国カーネギー研究機構地球物理研究所ポスドク研究員を経て、台湾中央研究院地球科学研究所にて2000年よりスタッフ。火山や変成岩の研究を行う傍ら、電子顕微鏡分析技術を応用し、東アジア、東南アジアから出土した文化財の科学研究も行っている。



## 学習院大学東洋文化研究所

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1(学習院大学 北1号館4階)  
■ JR山手線目白駅 徒歩1分  
TEL:03-5992-1015 FAX:03-5992-1021  
E-mail:ori-off@gakushuin.ac.jp  
URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/rioc/index.html>

